学校教育法施行規則改正に伴う記載事項

入試広報部

1.　入学者の選抜に関すること

本学の入学者選抜は文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に沿い、大学・学部・学科で定めるアドミッション・ポリシーを踏まえ実施する。今年度(令和７年度)実施する選抜は次の通り。

(1) 総合型選抜 専願 プレゼン型
(2) 総合型選抜 専願 小論文型
(3) 総合型選抜 専願 基礎学力型
(4) 総合型選抜 併願 基礎学力型
(5) 総合型選抜 姉妹校
(6) 総合型選抜 面接型 Ⅰ期
(7) 総合型選抜 面接型 Ⅱ期
(8) 学校推薦型選抜 併願 小論文型
(9) 学校推薦型選抜 併願 基礎学力型
(10)学校推薦型選抜 指定校
(11)学校推薦型選抜 姉妹校・カトリック校
(12)一般選抜 ３教科型
(13)一般選抜 ２教科型
(14)共通テスト利用選抜 前期 ５教科型
(15)共通テスト利用選抜 前期 ２教科型
(16)共通テスト利用選抜 後期 ２教科型
(17)共通テスト利用選抜 後期 １教科型

(1)　総合型選抜 専願 プレゼン型

本学での勉学を強く希望し、合格した場合は必ず入学することを確約できる者を対象とした選抜。大学教育を受けるために必要な「学力の３要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する。選抜方法はプレゼンテーション、面接及び書類審査（志望理由書・調査書）により多面的な評価を行い、総合的に判定する。また、高等学校等在学期間の主体的な各種活動を評価する活動申請書の提出者には内容に応じた加点を行う。

(2)　総合型選抜 専願 小論文型

本学での勉学を強く希望し、合格した場合は必ず入学することを確約できる者を対象とした選抜。大学教育を受けるために必要な「学力の３要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現

力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する。選抜方法は小論文、面接及び書類審査（志望理由書・調査書）により多面的な評価を行い、総合的に判定する。また、高等学校等在学期間の主体的な各種活動を評価する活動申請書の提出者には内容に応じた加点を行う。

(3)　総合型選抜 専願 基礎学力型

本学での勉学を強く希望し、合格した場合は必ず入学することを確約できる者を対象とした選抜。大学教育を受けるために必要な「学力の３要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する。選抜方法は適性検査（基礎学力試験）、面接及び書類審査（志望理由書・調査書）により多面的な評価を行い、総合的に判定する。また、高等学校等在学期間の主体的な各種活動を評価する活動申請書の提出者には内容に応じた加点を行う。

(4)　総合型選抜 併願 基礎学力型

大学教育を受けるために必要な「学力の３要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する。選抜方法は適性検査（基礎学力試験）及び書類審査（調査書）により多面的な評価を行い、総合的に判定する。

(5)　総合型選抜 姉妹校

本学の姉妹校を対象とした選抜。本学が定める評定平均値に達する者について、面接及び書類審査（志望理由書・調査書）により多面的・総合的に評価し選考する。

(6)　総合型選抜 面接型 Ⅰ期　/　(7)　総合型選抜 面接型 Ⅱ期

2024 年 4 月に新設された国際文化学科及び情報デザイン学科のみ実施する選抜。面接及び書類審査（志望理由書・調査書）により多面的・総合的に評価し選考する。

(8)　学校推薦型選抜 併願 小論文型

高等学校長から推薦を受けた者について、小論文及び書類審査（調査書）により多面的・総合的に評価し選考する。

(9)　学校推薦型選抜 併願 基礎学力型

高等学校長から推薦を受けた者について、適性検査（基礎学力試験）及び書類審査（調査書）により多面的・総合的に評価し選考する。

(10)　学校推薦型選抜 指定校　/　(11)　学校推薦型選抜 姉妹校・カトリック校

本学での勉学を強く希望し、合格した場合は必ず入学することを確約できる者を対象とした選

抜。本学が定める評定平均値に達し、本学が指定する高等学校から推薦を受けた者について、面接及び書類審査（志望理由書・調査書）により多面的・総合的に評価し選考する。

(12)　一般選抜 3 教科型　/　(13)　一般選抜 2 教科型

一般選抜は試験日及び試験問題が異なる 3 教科型と 2 教科型の 2 種類を設定し、両方の選抜を受験することを可能とする。また、本学試験会場（岡山）以外に、全国 6 か所に地方試験会場を設置し、本学試験会場と同様の形態で地方入試を実施する。

3 教科型の試験内容は国語・外国語・選択科目（日本史探究、世界史探究、地理探究、化学基礎、生物基礎、数学 I,数学 A）の 3 教科とする。

2 教科型の試験内容は国語・外国語・選択科目（日本史探究、世界史探究、地理探究、化学基礎、生物基礎、数学 I,数学 A）から 2 教科選択とする。

(14)　共通テスト利用選抜 前期 5 教科型　/　(15)　共通テスト利用選抜 前期 2 教科型
(16)　共通テスト利用選抜 後期 2 教科型　/　(17)　共通テスト利用選抜 後期 1 教科型

大学入学共通テストの成績を基に合否判定を行う共通テスト利用選抜は、出願登録期間及び利用する教科数の異なる 4 種類（前期 5 教科型、前期 2 教科型、後期 2 教科型、後期 1 教科型）を設定する。

試験内容は国語（漢文は除く）、外国語（英語リーディングとリスニングの合計）・地理歴史公民(『地理総合,地理探究』『歴史総合,日本史探究』『歴史総合,世界史探究』

『公共,倫理』『公共,政治・経済』『地理総合/歴史総合/公共』から 1 科目)・数学(『数学Ⅰ,数学 A』『数学Ⅰ』『数学Ⅱ,数学 B,数学 C』から 1 科目)・理科(『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』から 1 科目 *理科基礎科目は 2 科目の合計点で 1 教科分の点数として扱う)の 5 教科の得点のうち、選抜・学科毎に定める教科・科目の得点を採用して判定する。

2.　合否判定の方法や基準

入学者選抜は、学長を中心とする責任体制を明確化し、全学体制で遂行している。入学者選抜にあたっては、アドミッション・ポリシーを踏まえて実施している。入学者選抜の合否判定は、学長の責任・指揮のもと、学科の合否原案を学科長等により構成される学部入試委員会において協議し、成案となった合否案を教授会において協議し、承認された合否判定原簿に学長が署名捺印して決裁される。

3.　合理的配慮の提供に関する対応方法

障害や疾病及び怪我などにより受験上の配慮が必要な志願者に対し、「ノートルダム清心女子大学　障害のある学生に対する支援基本方針」に基づき、受験時及び就学上の必要な合理的配慮を提供する。

入学時選抜においては、入試広報部が窓口として、障害等がある学生に対して、本人及び保護者からの事前の申請に基づき、必要に応じ建設的な対話を行った上で、障害の状態や程度に応じて特別措置による入学時選抜を実施する。その提供内容は「障害学生支援委員会」での意見聴取を踏まえ、入試委員会によって決定する。希望者には出願期間開始日の１週間前までに入試広報部に連絡し、申請する旨を入学者選抜要項に記載している。これまでの具体的な合理的配慮の提供例としては、拡大した問題・解答用紙の作成、特定試験場の設定、試験場への乗用車での入構、座席指定の工夫、試験時間の延長、文書による注意事項の伝達、試験室入り口までの付添者の同伴等がある。

また、合格決定後は、インクルーシブ教育研究センターを窓口として、障害がある学生に対して、本人との建設的な対話を重ね、学内関連部署間の密接な連携により合理的配慮の提供を含む必要な支援についての検討を実施する。

4.　試験問題、解答・解答例や出題意図

例年発行する「ノートルダム清心女子大学　入試問題集」に試験問題、解答・解答例及び出題の狙い等を掲載している。

5.　入試区分ごとの受験者数/合格者数/入学者数、過去の年度の志願者数/受験者数/合格者数

例年発行する「入学者選抜要項」に過去３年間の選抜区分ごとの受験者数/合格者数/入学者数及び合格者得点を掲載している。

6.　多様な背景を有する者への支援制度

多様な学生（トランスジェンダー女性）受入れガイドラインを制定し、受け入れ体制がある。

7.　多様な学生の受入れ状況（例：年齢、性別（学部ごと）、国籍等）

別表①